

平成 26 年 3 月 25 日	病害虫発生予報 4 月号	茨城県病害虫防除所 茨城県植物防疫協会
---------------------	-------------------------------	------------------------

農薬を使用する前には、ラベルに記載されている使用基準のほか、
注意事項や有効期限なども必ず確認しましょう。

< 目 次 >

I. 今月の予報	
【注意すべき病害虫】	
イチゴ：ハダニ類	1
促成ピーマン：アザミウマ類	1
促成キュウリ・イチゴ：灰色かび病	2
【防除所レポート】促成トマトの灰色かび病	2
【防除所レポート】麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！	3
【防除所レポート】チャバネアオカメムシ類の越冬状況（平成 26 年 2 月調査）	5
【その他の病害虫】	6
麦類， ナシ， イチゴ， 半促成ピーマン， 促成キュウリ， メロン， 春レタス	
II. 今月の気象予報 7	

本文に記載されている薬剤は平成 26 年 3 月 12 日現在のものです。
最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。
茨城県病害虫防除所 Tel : 029-227-2445
予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。
ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

イチゴ

1. ハダニ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、寄生葉率(本年値 45.3%, 平年値 9.8%), 被害葉率(本年値 44.6%, 平年値 14.3%)ともに平年より高く、被害葉の発生地点率は平年よりやや高い(本年値 78%, 平年値 58%)。
- ② 気象予報によると、向こう1か月の気温は高いと予想され、発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハダニ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ② 薬剤は、薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で丁寧に散布する。なお、薬剤は古い下葉を除去してから散布すると、薬液が葉裏にもかかりやすくなり効果的である。
- ③ 薬剤抵抗性の発達を抑えるため、気門封鎖剤を除き同一系統・同一薬剤の連用を避ける。
- ④ ミツバチや天敵を使用している場合は、薬剤の影響日数等に十分注意する。

(平成 26 年 2 月 25 日発表 病害虫発生予察注意報第 2 号参照)

促成ピーマン

1. アザミウマ類

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い～多い	鹿行地域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在、寄生花率(本年値 59.5%, 平年値 30.7%), 発生地点率(本年値 100%, 平年値 68%)ともに平年より高い。
- ② 3月中旬現在、被害果率は平年よりやや高い(本年値 1.0%, 平年値 0.4%)。

[防除上注意すべき事項]

- ① アザミウマ類は増殖が速いので、発生の少ないうちに防除を徹底する。また、各種ウイルス病を媒介するので注意する。
- ② 薬剤は、薬液が花や果実にもかかるよう十分な量で丁寧に散布する。また、薬剤抵抗性の発達を抑えるため、異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。
- ③ 天敵を使用している場合は、薬剤の影響に十分注意する。

促成キュウリ・イチゴ

1. 灰色かび病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い (促成キュウリ) 平年並～やや多い (イチゴ)	県下全域

[予報の根拠]

- ① 3月中旬現在，促成キュウリにおける発病果率（本年値 1.4%，平年値 0.1%），発生地点率（本年値 40%，平年値 11%）はともに平年より高い。
- ② 3月中旬現在，イチゴにおける発病果率は平年並（本年値 0.1%，平年値 0.1%）で，発生地点率は平年よりやや高い（本年値 22%，平年値 9%）。

[防除上注意すべき事項]

- ① ハウス内が多湿になると発生が助長されるので，換気，送風等によりハウス内の湿度を低く保つ。
- ② 花落ちが悪い花卉や，罹病部は早急に取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。
- ③ 発生が多くなると防除が困難になるため，発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ④ 薬剤散布は，薬液が乾きにくくなる午後からは行わず，晴れた日の午前中に行う。また，曇雨天が続く薬液が乾きにくい場合は，くん煙剤を利用する。
- ⑤ 薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，異なる系統の薬剤を用いてローテーション散布する。

防除所レポート [促成トマトの灰色かび病]

灰色かび病は，トマトの主要病害のひとつで 20℃ くらいの多湿条件下で発生が多くなる。3月中旬現在，促成トマトにおける発生は平年より少なく，向こう 1 か月の気象予報でも特に発生を助長する条件ではない。一方，例年 3 月から 4 月にかけては発生が増加する傾向があり（図），また曇雨天が続くと発生が急激に増加しやすいので，今後の気象条件等に十分注意が必要である。

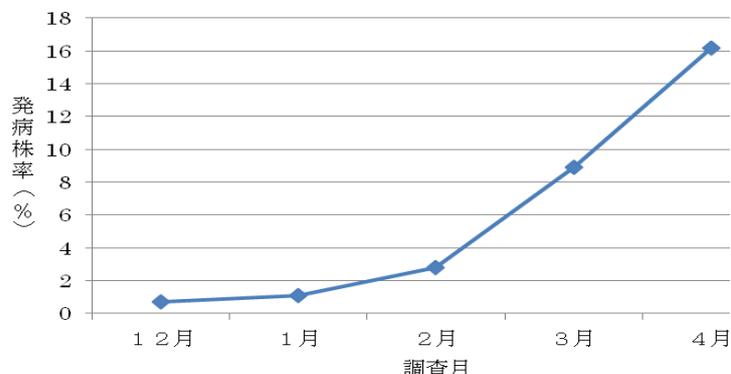
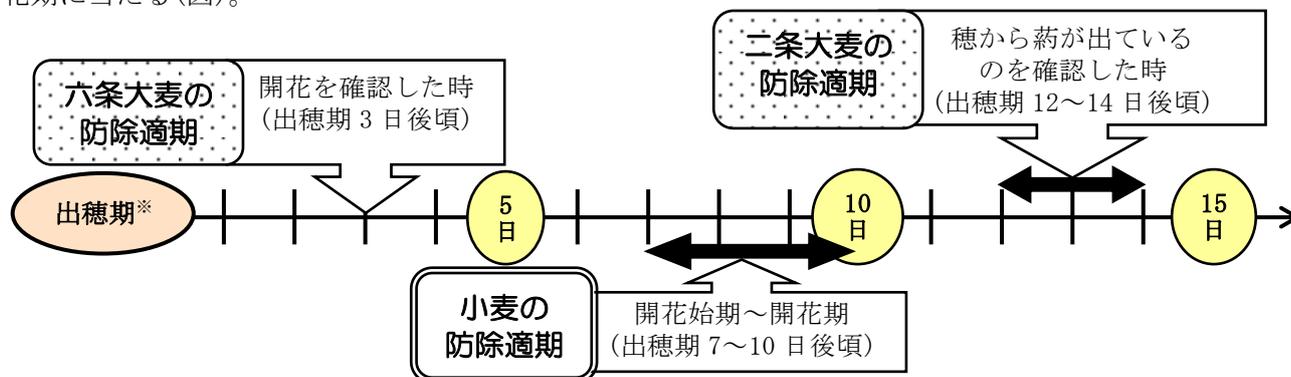


図 県内の促成トマトにおける灰色かび病の発生推移
(過去 10 年 (3 月は過去 9 年) の平年値)

麦類赤かび病の防除を適期に行いましょう！

◎効果的な防除のために

麦類赤かび病は、予防的防除が重要である。防除適期は、二条大麦では出穂期の12～14日後に穂から葍が出ているのを確認した時、六条大麦では出穂～穂揃期に開花を確認した時、小麦では開花始期～開花期に当たる(図)。



※出穂期：圃場の40～50%程度の茎が出穂した日を示す。

図 麦類赤かび病の防除適期

◎赤かび病菌が飛散しやすい条件

赤かび病菌の子のう胞子の飛散好適条件は、「日最低気温 10℃以上、日最高気温 15℃以上の条件を満たし、湿度 80%以上の日か降雨日とその翌日」である。飛散好適条件が続く場合は、1回目の薬剤散布7～10日後に2回目の散布を行う。薬剤を選定する際は、表3を参考に、使用回数や収穫前日数に十分注意する。また、2回以上散布する際は、薬剤耐性菌の出現を防ぐため、異なる系統の薬剤を用いる。

◎本年の出穂期予測と防除適期

龍ヶ崎市における麦類の出穂期は平年より5～8日遅くなると予測されている(農研速報 3月24日発行)。表1及び表2に、3月中下旬時点での農業研究所及び病害虫防除所の調査圃場における予測出穂期と防除適期を示した。予測出穂期は、今後の気温が平年並に推移した場合の計算値であり、例えば平年より1℃高く推移すると、これより2～3日早まると予測される。播種時期や麦種によって予測される出穂期や防除適期が異なるため、圃場毎に生育ステージを確認して、適期防除を実施することが重要である。

表1 農業研究所(龍ヶ崎市)における予測出穂期と赤かび病の防除適期

麦種	品種	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾
二条大麦	ミカモ	11/11	4/17	4/29～5/1
六条大麦	ゴールデン	11/11	4/17	4/20
六条大麦	カシマゴール	11/11	4/17	4/20
六条大麦	カシマムギ	11/11	4/19	4/22
小麦	さとのそら	11/11	4/24	5/1～5/4
		11/20	4/26	5/3～5/6

1) 予測出穂期は、農研速報(3月24日発行)より引用した。

2) 予測防除適期は、二条大麦は出穂期の12～14日後、六条大麦は出穂期の3日後、小麦は出穂期の7～10日後とした。

表2 巡回圃場における大麦の予測出穂期と赤かび病の防除適期

(平成26年3月24日現在)

麦種	品種	地域	調査地点	播種期	予測出穂期 ¹⁾	予測防除適期 ²⁾
二条 大麦	ミカモ	県南	稲敷市佐原組新田	12/ 5	4/24	5/6～5/ 8
	ゴールドデン	県西	筑西市伊讚美	11/27	4/26	5/8～5/10
六条 大麦	カシマゴール	県央	水戸市小林町	11/10	4/24	4/27
			那珂市飯田	11/15	4/23	4/26
		県南	河内町源清田	11/15	4/21	4/24
			常総市三坂町	11/24	4/24	4/27
		県西	筑西市小栗	11/25	4/27	4/30
			桜川市真壁町亀熊	12/ 3	4/29	5/ 2
	カシマムギ		八千代町高崎	12/ 9	4/28	5/ 1

1) 出穂期予測は農業研究所ホームページに掲載されている「麦類主要品種の主稈長による茎立ち期，幼穂長による出穂期予測法」の計算式を用いた。

2) 予測の際，平均気温は，幼穂長調査日(3月17～19日)から3月23日までは各調査地点付近のアメダス観測所の実測値を利用し，3月24日以降は各観測所の平年値を利用した。

3) 予測防除適期は，表1と同様に予測した。

※予測値は現時点での計算値であり，今後の気象条件等によって変動する可能性もあるので注意する。

表3 麦類の赤かび病に効果のある主な薬剤 (平成26年3月12日現在)

薬剤系統	薬剤名	麦種	希釈倍数	収穫前日数－ 本剤の使用回数	無人ヘリでの 登録の有無 ¹⁾
ベンゾイミダ ゾール系	トップジンM 水和剤	麦類 (小麦を除く)	1,000～ 1,500倍	30－3 (出穂期以降は 1回以内)	無 ²⁾
		小麦 [*]		14－3 (出穂期以降は 2回以内)	
ストロ ビルリン系	ストロビー フロアブル	麦類 (小麦を除く)	2,000～ 3,000倍	14－3	無
		小麦 [*]			
DMI	チルト乳剤25	大麦	1,000～	21－1	有
		小麦	2,000倍	3－3	
	シルバキュア フロアブル	大麦	2,000倍	14－2	有
		小麦 [*]		7－2	
ワークアップ フロアブル	大麦 [*]	2,000倍	14－2	有	
	麦類 (大麦を除く) [*]				

農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載されている使用方法・注意事項等を必ず確認のうえ，周辺作物への飛散に留意してください。

1) 無人ヘリ散布を行う場合は，希釈倍数や収穫前日数等が異なるので十分注意する。

2) トップジンM水和剤と有効成分が同じであるトップジンMゾルは麦類(小麦を除く)及び小麦で無人ヘリの登録がある。

3) ワークアップフロアブルと有効成分が同じであるワークアップS乳剤は麦類で無人ヘリの登録がある。

※印を付けた薬剤ではブームスプレーヤーによる専用ノズルを用いた少量散布も可能である。使用時には登録内容を確認すること。

【お知らせ】

大麦及び小麦の予測出穂期及び赤かび病防除適期は，4月上旬発表予定の病害虫速報で最新のデータに更新します。防除所のホームページ等からご覧ください。

チャバネアオカメムシの越冬状況（平成26年2月調査）

本年2月中旬に山林の表層土を含んだ落葉を1地点当たり30リットル採取し、チャバネアオカメムシ成虫の越冬数を調査した。落葉の採取は常陸太田市、笠間市、水戸市、鉾田市、行方市、石岡市、つくば市、桜川市の合計42地点で行った。

その結果、越冬数（本年値4.8頭、平年値2.7頭）、越冬地点率（本年値74%、平年値35%）ともに平年よりやや高くなった（表）。特に越冬数については、多発した平成24年に次ぐ値となった。

表 県内チャバネアオカメムシの越冬数調査結果（県平均値）

調査項目	平成26年		多発年（平成24年） ^{※2}		平年
	調査値	順位 ^{※3}	調査値	順位 ^{※3}	調査値
越冬数（頭） ^{※1}	4.8	3位	6.6	2位	2.7
越冬地点率（%）	73	2位	71	4位	35

※1 成虫数/落葉30リットル当たり

※2 予察灯誘殺数が過去10年で最も多かった年

※3 過去11年中の順位

チャバネアオカメムシの越冬数が多い年は、その年の4月～8月の予察灯への誘殺数も多くなる傾向がある（図）。特に本年はスギやヒノキの花粉飛散量が平年より少ないと予想されており（環境省発表）、果樹カメムシ類の主要な餌であるスギやヒノキの毬果の着果量も平年より少ないと予想される。このため、餌不足により果樹園に飛来する可能性が高い。

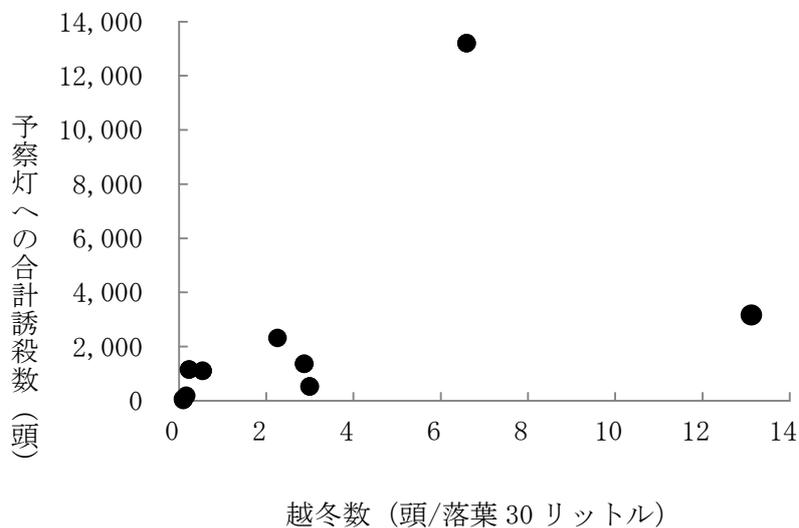


図 チャバネアオカメムシの越冬数と4月～8月の予察灯への合計誘殺数

病虫害防除所では、果樹カメムシについて予察灯調査（4月～10月）、サクラ等における発生量調査（5月～10月）を行うので、今後発表する情報に注意する。

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
麦類	赤かび病	発生時期:やや遅い ～遅い 発生量:－	農研速報(3月24日発行)によると、龍ヶ崎市では麦類の出穂期が平年より5～8日遅くなると予測されている。麦類の生育状況を正確に把握して、適期防除を行う(防除所レポート参照)。
ナシ	黒星病	発生量:やや少ない	昨年10月の秋型病斑の発生は、平年よりやや少なかった。
イチゴ	炭疽病	発生量:やや多い	3月中旬現在、平年よりやや多い発生である。発病株は抜き取り、適切に処分する。
ピーマン 半促成	うどんこ病	発生量:やや多い	3月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
促成 キュウリ	褐斑病	発生量:やや多い	3月中旬現在、平年よりやや多い発生である。
	アザミウマ類		
メロン	つる枯病	発生量:平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。
	つる割病		
春レタス	菌核病	発生量:平年並	3月中旬現在、平年並の発生である。

II. 今月の気象予報

関東甲信地方 1 か月予報

(予報期間 3月22日から4月21日)

気象庁 (3月20日 発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率 (%) >

[確率]

要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	関東甲信全域	10	30	60
降水量	関東甲信全域	40	40	20
日照時間	関東甲信全域	20	40	40

[概要]

天気は数日の周期で変わりますが, 平年に比べ晴れの日が多いでしょう。期間の前半は, 気温がかなり高くなる見込みです。

<1週目の予報> 3月22日(土曜日)から3月28日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率80%

<2週目の予報> 3月29日(土曜日)から4月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率70%

<3週目から4週目の予報> 4月5日(土曜日)から4月18日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年より高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。